



2007年8月17日

投資家の皆様へ

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

株式市場急落と今後の日本株式市場の見通しについて

8月17日の日本株式市場は、日経平均で前日比-5.42%、TOPIXも前日比-5.55%と大きく下落いたしました。

米国におけるサブプライムローン（信用力の低い個人向け住宅ローン）問題の悪化による景気の先行き不透明感や欧州ヘッジファンドの一時募集・解約の業務停止など、世界的に信用リスクに対する不安が高まっていると思われます。それに伴い、いわゆる質への逃避の動きから、円キャリー取引の巻き戻しが生じて円が急騰（前日比2.71円の円高（2007年8月16日時点））したことも日本株式市場の下落に拍車をかけたものと思われます。

指数	2007年8月10日	2007年8月17日	先週末比
日経平均株価	16,764.09	15,273.68	-8.89%
TOPIX	1,633.93	1,480.39	-9.40%
JASDAQ指数	75.44	70.02	-7.18%
指数	2007年8月10日	2007年8月16日	先週末比
NYダウ	13,239.54	12,845.78	-2.97%
FT100	6,038.30	5,858.90	-2.97%
為替	2007年8月10日	2007年8月16日	先週末比
ドル/円	118.40	113.89	-3.81%
ユーロ/円	162.13	152.90	-5.69%

※上記データの出所：ブルームバーグ

【今後の見通しについて】

上記の通り、世界的な信用リスク懸念や景気の先行き不透明感が高まっておりますが、米国サブプライムローン問題が欧州に広がると同時に、各主要国の中央銀行は短期金融市場に大量の資金を供給し、過度なリスクマネーの収縮に機動的に対応しております。

米国経済に関しては、引き続きサブプライムローン問題や個人消費減速の可能性等の懸念要因はあるものの、設備投資の拡大も続いており、底堅く推移しております。欧州、新興国でも、引き続き好調なファンダメンタルズによる高い成長が予想されます。日本経済に関しては、新興国の経済成長から恩恵を受ける外需関連が好調であること、また内需関連も個人消費が出遅れてはいるものの堅調な企業業績やそれを背景とした雇用環境の改善により緩やかながら回復して行くものと判断しております。特にこの円高は、今まで注目されていなかった内需関連銘柄の見直

■当資料は、情報提供を目的としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社で作成したものであり、勧誘を目的とした販売用資料ではありません。また、証券取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に掲載されている情報は、将来の運用成果、市場動向や運用方針等をお約束するものではなく、その結果を保証するものではありません。■当資料は、その正確性・完全性について弊社が保証するものではありません。また、将来予告なく変更される場合があります。■当資料中に記載されている内容、数値、図表等は当資料作成日現在のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。



しのきっかけになるものと考えております。

今回の株価下落は、世界経済の実態を反映したものというよりは、むしろ過熱していたリスクマネーの急速な収縮等による需給調整からの影響によるものと思われます。従いまして、今後も株式市場は短期的には乱高下することも想定されますが、堅調な日本経済の大きなトレンドに変化はなく、時間の経過とともに落ち着きを取り戻すものと考えております。

この急落で過度に割安になった銘柄も多く、弊社ではこうした局面を新たな投資の好機ととらえ、徹底的なボトムアップ・アプローチにより銘柄発掘に努めてまいります。

以上

■当資料は、情報提供を目的としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的とした販売用資料ではありません。また、証券取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に掲載されている情報は、将来の運用成果、市場動向や運用方針等をお約束するものではなく、その結果を保証するものではありません。■当資料は、その正確性・完全性について弊社が保証するものではありません。また、将来予告なく変更される場合があります。■当資料中に記載されている内容、数値、図表等は当資料作成日現在のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。